

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28年 11月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502173		
法人名	社会福祉法人 エクセル輛の浦		
事業所名	グループホーム エクセル輛の浦		
所在地	〒720-0203 広島県福山市田尻町4115番地 (電話) (084) 983-5888		
自己評価作成日	平成28年10月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471502173-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471502173-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年11月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

今年度より野菜作りを始めました。利用者と一緒に畑を耕し、かぼちゃやきゅうりやミニトマトの苗と一緒に植えました。利用者の中にはかぼちゃやきゅうりの生育を気にされて、毎日見に行かれる方もおられました。野菜の育っている様子や実った野菜を見て、微笑んでいる表情をされる利用者が多く見られました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、眺めの良い高台に位置した高齢者複合施設の一角に所在している。利用者は良好な環境で、家庭的な生活を送れるよう、職員の支援の下に穏やかに過ごしている。管理者や職員は経験豊かで、常に利用者の気持ちを優先しながら、本人本位のケアを心掛けている。母体の社会福祉法人「春海会」は、介護と福祉サービスに於いて経験と実績を築いており、当事業所は地域社会としっかり繋がっており、より満足度の高いサービスを目指している。更に職員は研修等を通して、スキルアップしながら日々の支援に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	施設の運営方針と経営理念を基盤として、グループホーム独自の品質目標を毎年度はじめに作り、実施している。	事業所の理念は、毎朝唱和し、毎月1回の介護会で、理念に基づいてテーマを決め確認しながら、スタッフは意見を出し合い理念を共有し、支援に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	3月の杏祭りでぜんざいを作り配っている。夏祭りはここを会場として地域との交流を行っている。グループホーム内での野菜作りについてアドバイスを頂いている。また12月は地域の方を呼んで利用者と職員とでしめ縄を作っている。	法人の地域交流委員会と共に、積極的に意見を出し合いながら、年間を通じて地域と繋がっている。法人最大のイベント「春海祭」は、多くの地域住民や事業所の利用者・家族が参加し交流を深めている。日常的には野菜や花作り等で、しっかり繋がりがあがる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の町内会、老人会、ケアハウスの方を対象に、2ヶ月に一度、認知症予防の話や運動を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に一度の運営推進会議での報告の内容等を介護会で話し、サービスの向上に活かしている。また提案された取組みを、即時実行している。	運営推進会議は、定期的に行われ利用者、家族からの意見を反映するよう取り組んでいる。また年に1度の家族会で、会議の報告も行っている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険課の職員、地域包括支援センター、民生委員、町内会長に運営推進会議へ参加して頂き、協力関係を築くように努めている。	介護保険課の担当者は、運営推進会議に出席している。市町からの要請で福山市の老人大学から、利用者との傾聴実習を毎年受け入れ、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の施錠は勿論のこと、車椅子上での拘束、ベッド上での拘束をしない事になっている。言葉の拘束にも気をつけて、利用者の行動を抑制しないようにしている。</p>	<p>全職員は、年2回法人の身体拘束研修と介護会へ必ず参加している。事業所では研修内容を更に精査し、グレーゾーンにあたるスピーチロック等を行わない取り組みを心掛けている。また玄関の扉は常に出入りを自由にして、職員が見守る体制をとっている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>施設内研修や介護会等で学ぶ機会がある。意識を高めることで虐待をしない、させないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>施設内研修や外部研修にて学んでいる。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時に、契約書と重要事項説明書を基に説明を行い、家族の疑問点にもお答えして、理解と納得を得て利用して頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>入居時にも苦情や意見を言って下さるよう説明をしている。職員は家族面会時に積極的に話しかける等して、話し易い雰囲気を作っている。</p>	<p>家族が来訪された時など、職員は担当者だけでなく、利用者の日常生活を説明するよう心掛けている。更に、家族が話し易い雰囲気作りが出来る様になら、意見等が有れば運営に反映出来る取り組みがある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	週1回のスタッフ会議や職員の親睦会を通して反映させている。また施設内に改善提案箱を設けて、職員がいつでも意見が言えるようにしている。	法人幹部や管理者は、会議や職員親睦会等で意見を聴き、その反映に努めている。今月から始まる内装工事に於いて、その前段階として、より質の高い支援が出来る様に、職員の提案を聴く等して、意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	スタッフ会議で取り組みの成果を発表したり、賞与の考課を基に把握している。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ISOによる、職員の教育訓練を積極的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域での研修を通して交流の機会を持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面接において、家族と本人の話をよく聴き、利用後は職員や利用者同士のコミュニケーションが図れるケアプランも作成している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前面接において、家族と本人の話をよく聴き、利用の契約時も家族の意向を必ず確認している。利用後も何かあれば連絡をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	家族と本人の意向をしっかりと聴いて、ケアプランに取り入れている。リハビリテーション等の支援も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯、掃除、食事作り等を一緒に行い、役割を持って頂く事で、やりがいを感じて頂けるよう支援している。又、感謝の言葉を掛けることで、必要とされていることを実感して頂いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族が定期的に面会に来られ、ご本人が好きだったおやつを介助して差し上げる事で、精神的に不安定な方も安心して過ごすことができている。また、何かあれば家族へ連絡して、情報の共有をする事で関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	デイサービス利用者の面会を積極的に受け入れたり、こちらから会いにお連れしたりしている。	家族の面会は勿論の事、隣接している同法人の特別養護老人ホーム・デイサービス・ケアハウス・有料老人ホームの利用者等と常に行き来しており、馴染みの関係を作っている。またこれらを通じて地域住民とも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	机の位置を工夫したり、リハビリレクレーションで、利用者同士が関われるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	必要があれば相談や支援に努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人、家族の意向を第一に考えて支援している。困難な場合でも、何が一番良い状態かを職員、家族と相談している。	利用者一人ひとりの希望や暮らし方を把握し、支援が困難な場合は、記録や申し送りノート等を見直し、職員は話し合いを重ねながら、原因等を検討し、日々その人にとって、より良い支援が出来る様努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	会話の中から、或いは家族から聴いたり、日々の生活の中から知り得た生活歴を職員間で共有し、サービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ケース記録に日々の出来事を記入し、把握するように努めている。又、申し送り等職員間で共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用時に本人及び家族と話し合い、サービス計画書を作成している。1～2ヶ月後に、看護師、担当介護員、介護主任、ケアマネジャー間でカンファレンスを持ち、再度、サービス計画書を作成している。	本人、家族の希望を聴取し、看護師・介護支援専門員・管理者・担当介護員等でサービス担当者会議を開催し、また年1回、家族に対してアンケートを取る等して、現状に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランチェック表やケース記録等で、モニタリングを行いケアプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	毎日の散歩等も他部署の廊下を利用している。一般浴が困難な利用者に対して、他部署の特浴を使用することで、安心して入浴して頂いている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	あんず祭や菜の花祭りに参加して頂く事により、地域の方との交流を深める事が出来る。また毎年、年末には地域の方が来られ、しめ縄作りを一緒に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	個々の症状により、係りつけ医を決めている。又、必要に応じて専門の病院を紹介して頂き、受診を行っている。	かかりつけ医として、病院（内科・外科・皮膚科）と医院（内科・外科）が利用者の健康管理を行っている。必要に応じて、両医療機関は入院対応も出来、他の専門医を紹介する等適切な支援をしている。月2回、希望者や必要に応じて建物内の歯科診療室で、診察出来る体制も整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎朝、夕方に看護師へ利用者の状態を申し送り、必要に応じて指示をもらい、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師及び看護師と連携をとって関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族、医師、看護師とカンファレンスを持ち、同意を得た上で介護計画書を作成し、職員と情報共有を行っている。又、家族が希望すればターミナルケアを行っている。	重度化した場合のあり方について、家族には冊子を配布している。回復が困難な状態で終末期に陥った場合は、家族・職員・医師・看護師が方針を共有し、支援に取り組んでいる。職員は平素から介護会等で、看護師から話を聞く等して、生活を通して、見守りながら支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	介護会や施設内研修で何度も学んでいる。急変時には、救急情報カードを使用し、救急隊員へ直ぐに情報が渡せるようにしている。また、実際に遭遇した事例は職員間で共有し、実践力の向上につなげている。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2度、消防訓練を行って、火災や災害時の緊急時に動けるように訓練をしている。	消防訓練は日中、夜間等想定して行っている。地域との協力関係は火災のみならず、風水害、地震時でも対応出来る様取り組んでおり、備蓄も法人全体で確保している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりに尊厳がある事をしっかり伝えた上で、命令口調や指示的にならないこと、排泄介助の際は周囲の方にも配慮した声掛けをする事で、プライバシーの保護にも努めている。そして、職員の表情や態度にも十分気をつけている。	利用者には、親しい間柄になっても人格を損ねない言葉かけに気を付け、誰も居ない部屋にもノックをして入る等、日頃よりプライバシーの確保に取り組んでいる。職員研修は、身体拘束と併せて行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食事作りは何を食べたいかを会話の中で聞いている。又、日常生活の中でもまず、「どうしましょうか」と本人様の意向を優先するように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事にしても朝起きて来られない方は無理をせず遅食にしているが、何でも本人優先にすると清潔保持が出来ない場合もあるので、優先順位に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔感のある服を着て頂くように心掛けている。特にボタン、破れには注意し、食べこぼしがあれば食後速やかに更衣している。又、散髪や爪切りも定期的に行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	本人の出来る能力と気持を考えて、食器を洗って頂いたり、テーブルを拭いて頂いたり、お盆を並べて頂いたり、食べたお皿を流しまで持参して頂いたりしている。又、一緒に盛り付けをする事で、食事を楽しんで頂けるようにしている。	利用者は、事業所の畑で職員と共に季節の野菜作りをしており、その中で、今年は地元名産の田尻かぼちゃが豊作で、色々なメニューを考え調理して、美味しく頂いている。気候の良い時期には庭に出て食事をしたり、週3回、2軒のパン屋が販売に訪れ、食事を楽しむ支援がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	全ての利用者の1日の水分量を表に記入し、水分量が少ない方は工夫しながら飲んで頂いている。栄養バランスは、管理栄養士の下で献立されている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、全利用者の口腔ケアをして、毎日チェックをしている。又、舌苔にも注意している。義歯のある方は、毎食外して磨いて、夜間義歯をポリドントに浸けて清潔を保持している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	施設全体でオムツ外しに取り組んでいる。自立は難しいが、日中のみや、日中、夜間共に綿パンツを使用してトイレ誘導を行っている方もいる。	職員は、利用者の排泄の自立に向けて日々取り組んでいる。例えばショートステイから入居された利用者に対して、オムツから布パンツに変更出来たり、夜間は一人ひとりの排泄パターンを把握、共有して自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給、散歩や体操を取り入れ便秘の予防を行っている。それでも難しい方はセンナリ茶を飲んで頂いたり、医師、看護師と相談して、下剤でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりのタイミングで入浴介助を行うことは非常に難しいが、入浴の希望があれば、出来るだけ叶えるようにしている。身体的に難しい方は、特浴を使用し安全に入浴している。	入浴タイムは、利用者一人ひとりの希望を把握し、その結果、入浴時間は午前10:00～11:00頃、午後14:00～16:00頃が無理なく楽しめる様で、入浴が苦手な利用者には、入浴剤等を使い、色や香りを変化を付け、楽しんでもらう為の取り組みがなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間不眠だったら昼寝をして頂くか、状況に応じて早めに休んで頂いている。また、体調によっては、上肢や下肢を挙げて対応している。季節に応じて空調の調節をしたり、タオルケットを使用する等して、掛け物の調整を行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師や医師に確認して、副作用や症状に注意し、職員間でも情報を共有して、事故にならないように気を付けている。誤薬を防ぐ為に、職員2名でペアとなり薬の確認をし、配薬する職員は3度の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	買い物に行ったり、洗濯物をたたんで頂いたり、食器洗い、干し柿作り、らっきょう漬け、梅ジュース等を作って頂く事で、役割や楽しみを持って頂ける支援を行っている。また、散歩やドライブ、バイキング等をする事で、気分転換の支援を行っている。ケアプランにも取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	出来るだけ希望に沿う様にしている。	利用者や家族の希望を聴き、福山城の菊花展やバラ展等に出掛けたり、個別外出時には、好物の食事を目的に外出したりしている。また、リハビリテーションの先生が作ったDVDを使って、週3回みんなで体操をしながら、外出支援に繋げる努力がなされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	紛失した時に利用者や家族に迷惑がかかるので、基本的に現金は持って頂かないようにしている。しかし、売店などで購入された際は毎月の利用料と一緒に請求させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族から電話があれば、いつでも取次いでいる。掛けたい事があれば電話できる支援を行っている。携帯電話を持たれている利用者も居られる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	台所は常に清潔にしている。浴室も毎日掃除している。特にトイレは気持ちよく使用して頂く為に、朝、夕と掃除を行っている。決まった時間だけでなく、随時清潔には気をつけている。	利用者が集まるリビングは、大きな窓から光や風が通り、キッチンから人の気配が感じられる。利用者は廊下のつき当りのソファに食事後、数人が集まり楽しく談笑する等、居心地よく過ごせる場所がある。また法人施設の中央には、景色の良いホールがあり、家族とゆったり団らん出来る設えとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テレビの前にソファを置き、自由に座って、利用者同士で会話ができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用時に馴染みの家具や椅子、テーブルを持参して下さいと伝えている。テレビや亡くなったご主人の写真を飾ったり、仏壇、鏡台を持参されている方も居られる。	居室は広めで、吐き出し窓からは明るい日差しが入り、海が眺められ良い景色が楽しめる。ベッドと使いやすいタンスは備え付けで、利用者の中には鏡台等馴染みの家具を持ち込んでいる。また仏壇を置いて、定期的にお寺からお参りに来てもらう等、居心地よく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	キッチンが食堂の側にあるので、キッチンやテーブルで食事の盛り付けをして頂いたり、食器洗いやお盆を拭くなどが出来る環境にある。又、トイレの場所も分かり易い様に、「便所」と書いて扉に貼っている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム エクセル輛の浦

作成日 平成28年 12月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	2F楽の家の入居者様でとても活動的な方がおられ、職員が気付かないうちに館内へお散歩に行かれる事が多く所在確認が難しい。	他部署としっかり連携をとり、所在確認が出来る。また、他部署の入居者様を招いて交流して頂ける機会を設ける。	他部署に予め情報提供を行い理解を求めているが、連絡を密に行い所在確認に努める。又他部署の入居者様をグループホームへ招いて交流できるよう環境を整える。	2週間
2	9	美の家の入居者様で日中・夜間大きな声で歌を歌われ、他の入居者様が立腹される事がある。	対象入居者様の精神面での安定を図り安心して過ごして頂けるように支援する。	散歩やレクリエーション等に積極的に参加して頂き、又他の入居者様と会話して頂く等し精神面において安心して過ごして頂けるよう配慮する。	2ヶ月
3	7	移乗介助時剥離事故等続いている方がおり、職員全員の介助方法を再度確認及び統一する必要がある。	職員全員が入居者様に負担が少ない移乗介助方法を教わり実施する。	他部署の上司に負担の少ない移乗介助の方法を教わり、実施する事により移乗時の事故を防ぐ。	2週間
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。